

Horizon Software 事業説明

2026/2/14





目次

1. Vision
2. 会社概要
3. 事業内容
4. 新事業内容
 - ① 完全な透明性の投資信託
 - ② マーケットメイクの金融商品化
 - ③ 土地・不動産のオンチェーン化
 - ④ 担保完全オンチェーン型オプション
5. まとめ

(資料末尾に「付録 用語説明」を付す)



株式会社 Horizon Software 会社概要

- 会社名 株式会社 Horizon Software
- CEO **林 拓未** (東大 2014年度入学)
 - 理学系物理学専攻 博士課程修了(2025)
 - 横山研究室 客員研究員
- 創業年度 2021 年 11月
- 株主 林 拓未 100%
- 事業概要
 - 金融市場分析・取引のためのソフトウェア開発・運用
- Web <https://horizonsoftware.co.jp/>

Vision



Mission

Make Finance Open, Clear, and Accessible.

閉ざされた金融へのアクセスをひらき
透明でわかりやすい形で提供する



Mission

金融の世界には、数多くの見えない壁が存在する

高い参入資産要件、アクセスが制限された金融商品、情報の非対称性、
業者との構造的な格差 etc...

**本来、金融は資本を循環させ、
機会を広く分配するための仕組みである**

**私たちは、その見えない壁を取り除き、
金融をよりオープンで透明なものへと再構築する**



Horizon Software設立の趣意

投資には本質的な性質が二つあります。

一つ目は投資がその他の仕事や活動と異なり**参加者全員が全く同じ課題に対峙しているという点**です。
参加者は同じ金融市場へのアクセスを持ち、同じ目的関数(=利益)を最大化することに取り組んでいます。
二つ目は投資が**金額に0を1つつけるだけで容易に10倍の生産性をもたらすことができるという点**です。
このような高度のスケールビリティを持っている活動は他には殆ど存在しません。

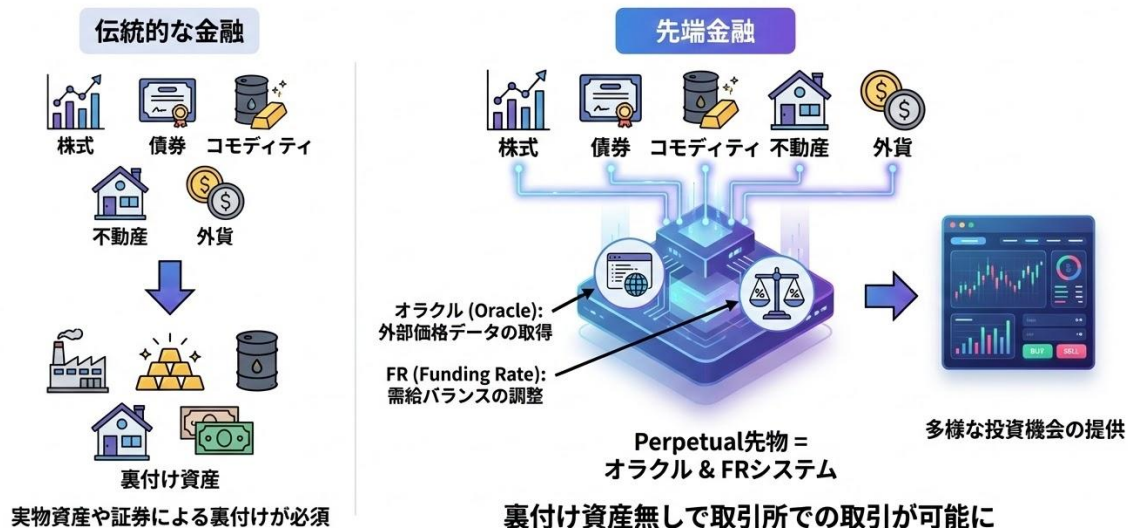
このような性質のタスクを、**個々人が個別に取り組むのは、社会全体の効用という観点では大変に非効率的** だと言わざるを得ません。
そんなことをするぐらいなら、代わりに一部の専門家(できれば公共益を尊重することが求められる公人など)が投資を判断し、
その利益を社会に分配するほうがよほど合理的であると思います

昨今、NISAをはじめとして「国民一人一人が金融知識を高め、投資に取り組むべし」という風潮がありますが、そんなことをしている暇があるなら、科学や技術について勉強し、**個人の取り組むべき仕事に集中した方が、よほど社会全体は良くなるのではないのでしょうか？**

弊社の事業は「金融市場においてプログラムでトレードを行い利益を生み出す」という内容です
それは、こうした問題意識を踏まえ、**自動での投資判断を行う事業が社会に極めて有益だと信じる**からです

株式会社 Horizon Software 代表取締役 林拓未

昨今の先端金融の変化（あらゆる資産の証券化）



- 日本でも実証が始まっている
- 「金融相、ステーブルコインで株売買「画期的」、大手証券などの支援発表 2026年2月13日」
 - <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB132750T10C26A2000000/>



hyperliquid

- hyperliquid: <https://app.hyperliquid.xyz/trade/xyz:XYZ100>
 - **オンチェーン**で動作する高性能なデリバティブ取引所
 - 中央集権型取引所(CEX)の高速性と分散型取引所(DEX)の透明性を両立することを目的として設計
- 基本構造
 - 独自のレイヤー1チェーン上で稼働
 - 完全オンチェーンのオーダーブック方式
 - perpetual(無期限先物)を中心としたデリバティブ取引
- 特徴は「板情報・約定履歴・清算ロジック」がすべて確認可能
 - **全ユーザの資産状況・ポジション・注文が見える！**
- 別の取引所を hyperliquid インフラ上に実装可能



私たちの具体的な目標

hyperliquidのインフラを活用・参考にして、
新しい取引所・取引システムを構築する

- その中で、
 - ① 既存金融で取引されている商品
 - 株式、コモディティ、外貨 etc..
 - ② 既存市場では提供されにくい商品
 - マーケットメイク、国債、オプション、土地 etc...
の双方を実装する

会社概要



株式会社 Horizon Software 会社概要

- 会社名 株式会社 Horizon Software
- CEO **林 拓未** (東大 2014年度入学)
 - 理学系物理学専攻 博士課程修了(2025)
 - 横山研究室 客員研究員
- 創業年度 2021 年 11月
- 株主 林 拓未 100%
- 事業概要
 - 金融市場分析・取引のためのソフトウェア開発・運用
- Web <https://horizonsoftware.co.jp/>



沿革 & 現在状況

- 2021年11月 **創業**
 - CEOは博士課程在学中
 - 仮想通貨取引所でのマーケットメイク事業を開始
- 2022年下期 **利益安定**
 - 取引所との個別プログラムを締結
 - 利益を理学系部局に寄付(2000万)
- 2023年 **対象を株式に広げる**
- 2024年 **CEOが学業専念**
 - 利益減少傾向
 - CTO進藤 join (CS専攻卒 電子情報学博士課程 在籍)
- 2025年 **CEOが博士号取得**
 - 既存事業の改善と新事業の準備を開始

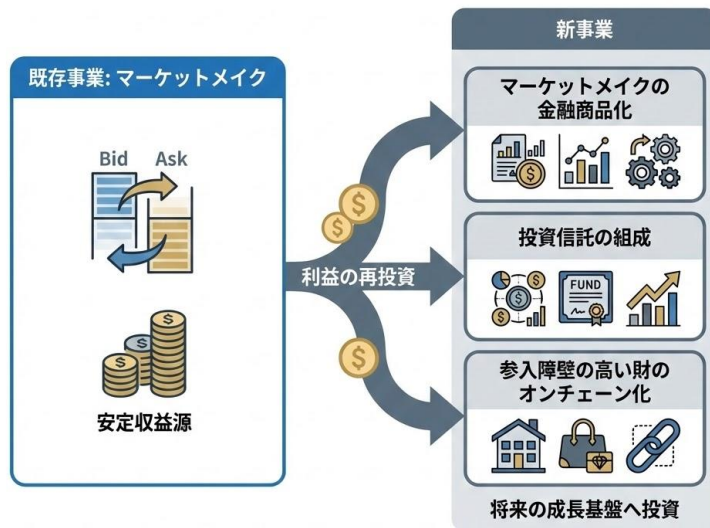


現況と今後の展望

- 2025年以降に事業を再始動
 - ①既存事業の改善と②新事業の準備
 - 2025期は赤字
- **実質的にはスタートアップの新会社**
 - 2021-2024の利益を資本金とした新会社というイメージ
- 既存事業の利益を新事業に投資している
- 今後は採用を増やし**15人規模**まで増員予定
 - 東大の理学系・工学系・経済学系を中心に採用
 - **本郷近辺は立地的に人を集めやすい**
- 新事業はVCをいれて上場を目指す可能性がある

現状のキャッシュフローの概要

- 現状は資本金は積みあがっているが、既存事業の利益が減少している、そのうえで新事業に投資したい





東大とのシナジー

- 本当の数理的な能力が必要とされる
 - 大学3年以降レベルの数学を使う数少ない仕事
- 共同研究という形式を取ることも可能
 - 先端的な研究をそのまま形にするのは難しいが、機械学習や数理から生まれるアイデアによって性能を上げることはできる
- 我々の事業が上手くいったら、本郷近辺のビル一棟借り上げて**本当のアントレプレナープラザ**を作ります
 - 形式ではなくアイデアとポテンシャルに投資したい

事業説明

事業内容① マーケットメイク

- 市場に流動性を提供し、取引を円滑にする仕組み



- **流動性の提供**：常に売り・買いの注文を出して、いつでも取引が成立する状況を作ります
- **当社の強み**：高度なアルゴリズムと数理モデルにより、市場の変化に瞬時に対応し、低スプレッド(売り買いの価格差)で注文を提供することができます

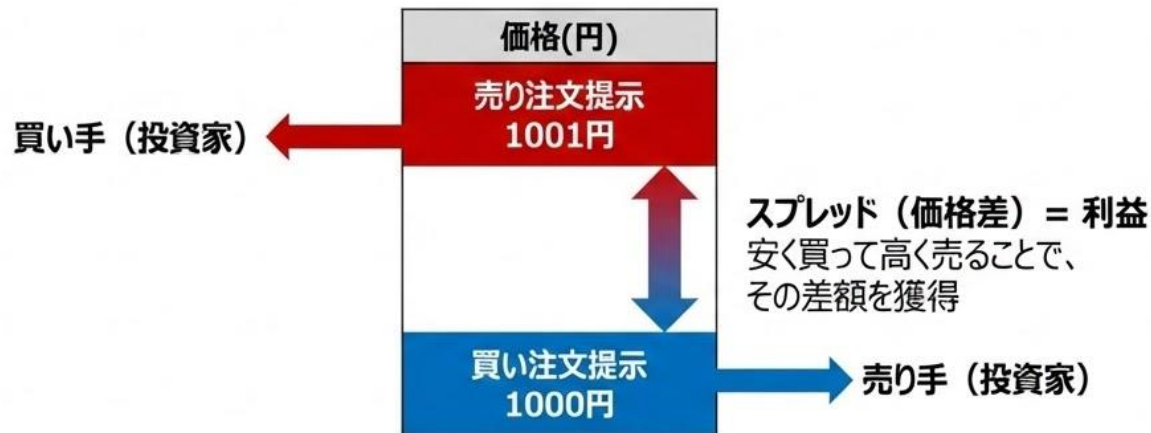
事業内容① マーケットメイク 板注文の仕組み

- 「板(いた)」とは、取引所に集まった全ての「売り」と「買い」の注文を価格別に並べたリスト

板(オーダーブック)のイメージ		
売り注文(数量)	価格(円)	買い注文(数量)
500	1003	
1,000	1002	
最良 売気配 2,000	1001	
	直近の約定価格	
	1000	最良 買気配 1,500
	999	800
	998	1,200

- マーケットメイカーの役割
 - マーケットメイカーは、板の売り側と買い側の両方に継続的に注文を提示し、スプレッドを狭く保ち、いつでも取引が成立しやすい状態 (流動性)を作る
 - 板は「市場の需要と供給」を可視化したもの
 - 注文がマッチングすると取引が成立 (約定)します。当社は板に厚みを持たせ、円滑な取引を支えている

事業内容① マーケットメイクの利益



- ① スプレッド (売買価格差)
 - 提示した売り注文と買い注文の価格差が主な収益源
膨大な取引回数により、小さなスプレッドを積み重ねて利益創出
- ②取引所からのリベート (手数料還元):
 - 市場に流動性を提供する対価として、取引所から手数料が還元



事業内容① マーケットメイク業者

- マーケットメイク業者の市場参加には二種類ある
 - ① 取引所が個別にマーケットメイク業者と契約する場合
 - 例: 堂島取引所のコモディティ
 - <https://www.odex.co.jp/futures-trading/market-maker/index.html>
 - ② 勝手にマーケットメイクする場合
 - この場合も取引所が取引額(出来高)に応じて、キックバックや取引手数料の優遇などの特典を与えることがある
- 弊社は基本的に②で行っている
 - ②で行う中でも取引所とのコミュニケーションはある

新事業説明



新事業① 完全な透明性の投資信託

- 背景
 - 従来の投資信託は、以下の構造的問題を抱えている
 - 運用ロジックがブラックボックス
 - 多くのアクティブファンドが株式指数をアウトパフォームできない
 - 手数料がパフォーマンスに対して過大
- 提案
 - ブロックチェーン上で運用ロジック・資産構成・リスク指標を完全公開する
 - オンチェーン型・透明投資信託 (Transparent On-Chain Fund) を構築する。
 - コンセプトは「hyperdashのような可視化された運用プラットフォーム」
 - hyperdash: <https://hyperdash.com/explore>
- 基本設計
- hyperliquidインフラの元で投資信託は **完全な透明性** を持つ
 - ユーザーは、投資信託の現在のポジション、レバレッジ水準、パフォーマンス寄与度をリアルタイムで確認可能
- ワンクリックで全履歴が透明な投資信託に投資できる



新事業① マーケットメイクの金融商品化

- 背景
 - 従来のマーケットメイクは、業者が内部資本を用いて行うクローズドな事業
 - 個人投資家は収益構造にアクセスできない
 - マーケットメイクは「流動性供給」の対価であり、安定的なリスクプレミアムを内包するが、それは証券化されていない
- 提案
 - AMM(Automated Market Maker)を基盤とし、マーケットメイクを投資可能な金融商品として設計
- 基本設計
 - デルタヘッジ統合型 AMM
 - 外部CEX市場との裁定を前提としたデルタ中立化
 - ボラティリティ連動スプレッド
 - 実現ボラティリティ σ_{realized} に応じた手数料動的調整
- マーケットメイクを「リスク制御された流動性供給資産クラス」として再定義



新事業② 土地・不動産のオンチェーン化

- 背景
 - REIT(不動産投資信託)の構造的問題
 - 投信の組成主体が価格上昇にコミットしていない
 - 質の低い物件が混入
- 提案モデル
 - 土地・不動産のまとまりのトークン化
 - トークン保有率に応じて購入物件の意思決定権を持つ
- 低い自己資金で土地・不動産の価格上昇に betできる



新事業③ 担保完全オンチェーン型オプション

- 背景
 - 日本ではOTC中心、流動性不足、個人アクセス困難
 - オプションは理論上 利益無制限 = 損失無制限(裸売り)
 - → 中央清算依存
- 提案
 - hyperliquidインフラ上ではすべての資産が見える
 - ユーザがオプションを売ると担保をロック
 - 限界利益上限が付いたオプションの売買
 - 実質的にブルコールスプレッド
 - → 無制限リスクを排除した市場設計
- **誰でもオプションにアクセス可能、誰でも組成可能**



新事業のまとめ

- 新事業
 - ① 完全な透明性の投資信託
 - ② マーケットメイクの金融商品化
 - ③ 土地・不動産のオンチェーン化
 - ④ 担保完全オンチェーン型オプション
- 上記をhyperliquidインフラ上に実装する

まとめ



まとめ

- 弊社は2025年に**既存事業のマーケットメイク**と**新事業**を軸とした会社に新生
 - 新事業は個人アクセスが困難な金融商品へのアクセシビリティ向上が軸
- 既存事業の利益減少と新事業への投資でCFの余裕無し
- 両面への投資のために、人員を拡大したい
- 採用のターゲットから考えて、**本郷周辺に10人-20人規模の拠点**を必要としている

おわり

付録 用語説明 (FR, 無期限先物)

Perpetual 先物(無期限先物)の仕組み

- 概要と特徴
 - Perp = Perpetual = 無期限先物
- 満期日(決済日)が存在しない先物契約
- 理論上、無期限にポジションを保有可能
- 満期による強制決済がないため、価格乖離を防ぐ仕組みが必要 (= 資金調達率)
 - 通常の前物なら満期に現物資産と先物価格の価格差がなくなるはずだが、無期限なのでそのタイミングが来ない
- ちなみに仮想通貨の前物はほぼ perp 先物

現物資産の裏付けが無くても
同等の財を証券化できる

- 価格乖離を防ぐ核心: 資金調達率
(Funding Rate = FR)
 - 目的: 先物価格を現物価格に連動させる
 - 仕組み: 一定時間毎にロング保有者とショート保有者間で資金交換

ケース1: 先物価格 > 現物価格 (Funding Rate 正)

ロング保有者 $\xrightarrow{\text{支払い}}$ ショート保有者
効果: 価格を下げる圧力

ケース2: 先物価格 < 現物価格 (Funding Rate 負)

ショート保有者 $\xleftarrow{\text{支払い}}$ ロング保有者
効果: 価格を上げる圧力

Perpetual 先物(無期限先物)の仕組み

- hyperliquidのBTCのperpのチャート画面
 - $\text{Funding/Countdown} = \text{資金調達率} / \text{次の資金交換までの時間}$

